

花しょうぶ

Vol.32

「ぼく、育休 とりました。」

～ パパの育児が家族のつながりを
もっと強く、深くする～

レポート
女性の
地域リーダー
養成講座

レポート「女性の地域リーダー養成講座」

防災をはじめとした地域活動や課題について、地域において女性が果たす役割は非常に大きいものです。男女共同参画の視点を学び、地域づくりに必要な課題解決のノウハウや、コミュニケーション能力を磨き、地域で活躍する女性リーダーを育成するため、8月から10月まで全6回にわたって開催された「女性の地域リーダー養成講座」を受講しました。

平成26年度 女性の地域リーダー養成講座「カリキュラム内容」

- 第1回 「なぜ地域に女性の力が必要か」
講師：三重県男女共同参画センターフレンテみえ 専属講師 柏木はるみ
- 第2回 「地域における課題解決力」
講師：（特活）市民フォーラム21・NPOセンター 事務局長 藤岡喜美子
- 第3回・4回 「地域リーダーに必要なコミュニケーションスキル（基礎・応用）」
講師：有限会社幸プランニング 代表取締役 長野ゆき子
- 第5回 「桑名市の防災について」
講師：桑名市役所 防災・危機管理課 防災指導員 藤井一隆
- 第6回 「女性の防災について」
講師：桑名市消防本部 消防団 女性消防団員

「地域リーダーに必要なコミュニケーションスキル」では、有限会社幸プランニング代表取締役 長野ゆき子氏を講師に迎え、エゴグラムやチェックシートを使った自己分析や、物事に順位をつけてみることで価値観の異なる人たちとの対話を図るグループワークなど、受講者を引き付ける参加型の講座が行われました。

「桑名市の防災について」では、桑名市役所 防災・危機管理課 防災指導員 藤井一隆氏を講師に、受講者の住んでいる地域が津波、液状化が発生した場合の状況を予測したり、自然災害に備えることの重要性が語られました。また「女性の防災について」では、バスタオルや段ボールなどの身近な物で作れる防災グッズやトイレ、乾パンの調理法が紹介されました。

参加された方は、「3.11をきっかけに防災について改めて考えた時、地域女性リーダーの必要性を強く感じました。男性だけでなく女性の声が必要だと思います。一緒に勉強し意識を高めていく中で、自然と桑名に女性リーダーが生まれれば声が行き渡るなという思いです。」「参加したいと思ったのは自分も何かしたい、変えたい、という思いがあったからだ」と改めて感じました。私の一歩をありがとうございました！」とおっしゃっていました。



4コマ漫画 さくらい ちか



第4回「コミュニケーションスキル応用編」



第6回「女性の防災について」

■妊婦さんの半数以上が里帰り出産を選択されています。里帰り出産は、妻にとっては産後の体を休めることができるなど良いところが多いですが、夫は赤ちゃんと一緒に過ごせないため、父親としての実感が湧きにくいということがあるようです。今回取材させていただいたお二人は、新しい命を夫婦で助け合いながら育む選択をされており、自ら育てるという意志の強さを感じました。男性の育休取得は、まだまだ難しいようですが、休みを取ることが困難ならば、仕事を少しでも早く切り上げて、家族のために過ごす人が増えるといいですね。

久木 美緒

■今年より編集委員となり、『男性の育児参加』というテーマが興味深いこともあって、楽しんで紙面作りに参加できました。「子どもの成長は待ったなし！」ですので、小さいお子さんのいるパパさん、ママさんは今しかできない期間限定の育児を大いに楽しんでください。今回ご紹介したお二人のパパさんは、お子さん達との時間をとても大切にされていて、思春期の娘たちと日々格闘している私にとって、子ども達が幼い頃の感覚をよみがえらせてくれたところがありました。

中村 美紀

編集委員：伊藤朱喜 桜井千夏 佐藤忠光 中村美紀 久木美緒

お知らせ 男女共同参画をテーマとした「出前トーク」を実施しています。詳しくは下記までお問合せください。

この情報紙は市役所市民協働課、市役所総合案内、サンファールサテライトオフィス、図書館、最寄の地区市民センターなどにあります。よりよい情報発信ができるように、市民の皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしています。今後もご愛読どうぞよろしくお願いいたします。

【発行】桑名市市民安全全部市民協働課 〒511-8601 桑名市中央町二丁目37番地

Tel 0594(24)1413 Fax 0594(24)1735 Eメール ccollabo@city.kuwana.lg.jp

「パパの育児」が家族のつながりを もっと強く深くする



ひと昔前までは、育児、子育ては女性が行うことが当たり前のようには考えられていました。近年では女性の社会進出が進み、男性の育児取得の機運が盛り上がり、メディアの話題として取り上げられています。しかし現実には、経営者の意識改革や同僚の理解など職場での環境が整っていないとなかなか取得はむずかしいようです。今回実際に育児を取得されたお二人に育児を取るに至った経緯、また、育児中の家族との関わりなど体験談を伺いました。



株式会社小林薬局 星川支店 管理薬剤師

ひら い ひろ かず
平井 宏和さん 38歳

三重県桑名市出身。
大学院卒業後、旧 山本総合病院（現 桑名東医療センター）の勤務を経て、現在は株式会社小林薬局に勤務。
妻、長男（6歳）、長女（3歳）、次女（10ヵ月）の5人家族。



◆**子どもとの時間を楽しむようにしています**
妻は今仕事をしていないので、朝は妻に任せて、夕方帰宅してから子どもをお風呂に入れて、寝る前に本の読み聞かせをしています。休日には歯磨きなどの身の回りの世話をしたり、一緒に遊んだり、買い物に行ったりしています。

育児から始まる私の子育て

◆**職場の環境に恵まれました**
長男と長女の時は前職場で、次女の時とは現職場で休暇を取りました。上二人の時は、周りの方が出産時に慶弔休暇を利用されていたので、わりと普通にというか、特別なこととは思わずそういうものだと思って私も各2日ずつ取得しました。

次女の時とは現職場の小林薬局で取得しました。上司に相談しやすく、周りの理解を得られたこともあり、育児と有休を併せて4日取得しました。

◆休暇の形にこだわらないで休むことから！

育児を取るのが難しい職場なら、慶弔休暇や有給休暇を利用してもいいのではないのでしょうか。形にこだわらなくてもよいと思います。子育ては長い期間続きます。これから子どもの成長、例えば病気の時や、幼稚園、学校行事等に合わせて休暇を利用し、子どもに関りたいと思います。

◆父親としての自覚

一般的に男性は、子どもと触れ合う時間が女性に比べて少ないと思います。数日ですが子どもと一緒に過ごす時間を得たことで、父親としての実感が湧き、自覚が生まれました。また慣れない家事をすることで妻の大変さを理解することもできました。育児は育児参加への良いきっかけになるのではないのでしょうか。

子どもたちとの絆を深めた2週間

◆育児を取得したきっかけ

妻が三男を出産するために入院している間、長男、次男の育児を私の両親に協力を得ることを考えたものの、子どもたちの生活環境を変えない思いから、家事、育児を自分でしようと思ったのがきっかけです。帝王切開での出産を予定していたため、事前に職場に相談しやすく、育児取得の理解をいただいていた。有給休暇を利用して、2週間育児を取得しました。



桑名商工会議所 総務課

ひがし おか けん
東岡 謙さん 41歳

三重県亀山市出身。
大学卒業後、食品卸問屋の勤務を経て、現在は桑名市商工会議所に勤務。
妻、長男、次男（9歳双子）、三男（5歳）の5人家族。



◆**育児中の一日**
朝ごはんを作って、子どもたちと一緒に食べて、洗濯して。今まで妻に任せていた家事、育児すべてをしていました。子どもたちが保育園へ行っている間に家事をひととおり終わらせて、迎えに行った後、入院先の病院で、家族五人の時間を楽しく過ごしました。

◆育児を取得してみてもいい

一日を通して一緒に過ごしたことで、私の知らない子どもの姿を見ることができて良かったです。子育ては父親、母親だけでなく上の子どもも含めて家族全員でかかわるものだと思います。

◆育児に対して心がけてほしい

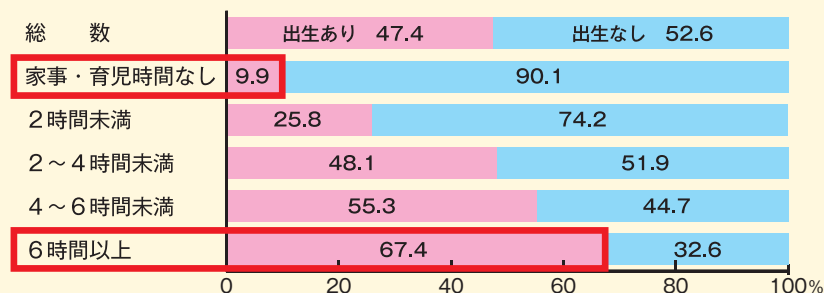
基本的には「子ども」として接するよりも、「二人の人間」として接するようにしており、子どもがどのような雰囲気、行動しているか、何が理解できて、何ができないのかを把握することを心がけています。また、子どもの行動で人様に迷惑がなかった場合、行動自体が悪い場合はその場ですぐに叱るとともに、その行動について考えさせるようにしています。

◆これから父親になるひとへ

育児を取れるならば、ぜひ取ってください！

私は今になって、もっと長い期間育児を取ればよかったと思っています。子どもが小さい頃に時間を巻き戻すことはできません。長男、次男は、私が育児を取った2週間を鮮明に記憶しています。ぜひ、育児を取得し、親子で共に充実した生活を共有してください。

子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生の状況（平成16～24年）



（参考）
①厚生労働省「第9回21世紀成年者縦断調査（平成24年3月）より作成。
②集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。③第1回調査から第9回調査まで双方が回答した夫婦 ④第1回調査時に独身で第8回調査までの間に結婚し、結婚後第9回調査まで双方が回答した夫婦 ⑤出生前調査時に、子ども1人以上ありの夫婦
⑥家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第8回調査時の状況である。
⑦8年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
⑧総数には、家事・育児時間不詳を含む。
出典：ひとりひとりが幸せな社会のために、男女共同参画社会の実現を目指して 平成24年版

育児をとる男性は少しずつ増えてきていますが、実際はわずか**1.89%!!**（2012年厚生労働省調べ）これが現状なんです。今回の取材に関してもお二人に出会うまでに時間がかかりました。お二人は気負うことなく自然体で育児をされていて、とても素敵なパパ達でした。

上のグラフは「第2子以降の出生の状況」ですが、男性の家事、育児参加が増えると出生率も上がっています。イクメンが増えれば、家族のあり方がもっと変わっていくはず。また父親と接することが増えて、子どもたちが豊かに成長するのではないのでしょうか。